

資料室

はじめに

標題の(17)からはじまった わが国をはじめ世界各国の文献抄録事業の紹介も四回目となるが 今回はその最後として フランスのこの分野の詳細について紹介することとする。

フランスの文献抄録事業は 国の科学研究開発事業の重要な部門として CNRS (Centre National de la Recherche Scientifique) の資料センター (Centre de Documentation du CNRS) が中心となって 各分野の研究機関の資料部門と協力して ほとんど完璧ともいえる体制のもと 詳細な抄録誌を出版しているのであるが その力の入れようは注目に値する。したがってここでは フランスの科学研究開発事業の概要から論を進めてゆくこととする。

フランスの科学研究開発事業の概要

1975年の資料によれば フランスのすべての自然科学系研究機関に勤務する総人員は24万名で このうち研究

者は8.5万名である。 その内訳は 大学3.5万名 公的研究機関2万名 民間研究機関3万名となっている。

公的研究機関の研究開発事業の内容分布をみると 全領域の基礎研究42% 産業開発13% エネルギー18% 保健衛生・農学・環境科学他17% 宇宙科学10%となっていて 基礎研究を重視する伝統的な傾向をうかがい知ることが出来る。

公的研究機関は 農務省 産業研究省 環境省 保健衛生省などの各省に所属することは わが国と変わらないが 大学担当庁というあまり聞きなれないが われわれにとっては重要な関係のあるのがある。 CNRSはこの大学担当庁に所属し 一般に国立科学研究所(あるいは研究院)と訳される。 これは1939年に 各分野の基礎研究部門を担当し フランスの自然科学的ポテンシャルのエピセンターとして 文部省に所属して誕生したのである。 その後1974年に 現在のディスカール・ディスタン大統領が選出されて その時の機構改革によって 文部省が 従来の文部省と大学担当庁の2つに分けられたのであるが CNRSはこの大学担当庁の管下に所属することになって現在にいたっている。 CNRSには多くの研究所が所属するが(写真1) その他研究グループあるいは研究チームとして活動しているものも多くある。 CNRSに所属する全研究所に勤務する総員は1.9万名のうち研究者は6,900名である。 また現在CNRSに所属する研究所は131で 研究グループおよび研究チームは167の多きにおよんでいる。 これらのなかで地学関係のものを2~3あげると 研究所ではシュトラースブル(Strasbourg)の表層堆積学地球化学センター(Centre de Sédimentologie et Géochimie de la Surface) やガルシー(Garchy)の地球物理学研究センター(Centre de Recherches Géophysiques) などがあり 研究グループではフランス粘土グループ(Groupe Français des Argiles)などがある。 またこれからのべる資料センタ

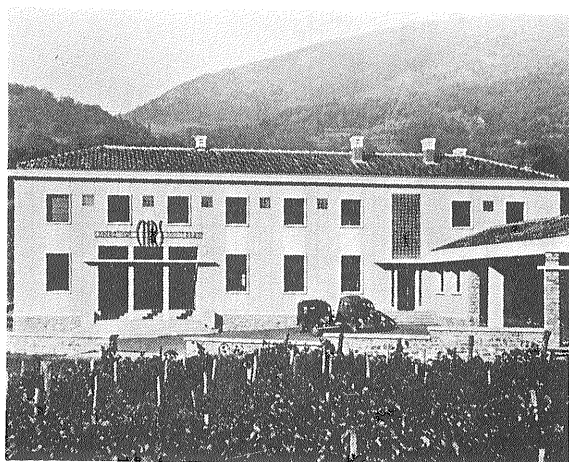


写真1 CNRSのMoulis洞窟研究所

一も CRNSの資料・出版・広報部門として 極めて重要な役割りを果している。

フランスの文献抄録事業

CNRSの資料センターが 各分野の研究機関の資料部門と協力して 世界各国の文献を抄録して月刊誌として発行していることはすでにのべた。1972年には この関連分野は つぎの16分野となって現在にいたっているが 今後さらに多くの分野に拡大されてゆくものと考えられる。

エレクトロニクス
 鉱物学・地球化学・宇宙地質学
 鉱床学・鉱業経済
 火成岩
 堆積岩・海洋地質学
 層位学・地域地質学・一般地質学
 構造地質学
 水理学・土地地質学・表層地質学
 古生物学
 人間工学・医学情報
 眼科学
 耳鼻咽喉科学
 皮膚科学
 麻酔学・蘇生学・ショック学
 脊椎動物生理学・ビタミン学
 溶接工学・同付帯技術

ここで注目すべきことは 以上の16項目のうち 実に半数の8項目が地学関係で 以下医学関係6項目 工学関係2項目となっている。

BRGMの資料業務

まずはじめに BRGM についてのべねばならない所

であるが BRGM については地質ニュースなどで すでに多くの機会にのべられているので ここではその歴史の変遷などについてのみ 簡単にふれるにとどめる。

フランスの地質調査事業は すでに永年の歴史があるが近代化の体制が整ったのは 1942年 BRGG (Bureau de Recherches Géologiques et Géophysiques) としてである。ついで1953年には BRGGM (Bureau de Recherches Géologiques Géophysiques et Minières) となり エネルギー資源および放射性物質を除く 鉱山の研究開発も行なうようになった。さらに1959年11月1日から 現在の BRGM (Bureau de Recherches Géologiques et Minières) となったが 1967年12月22日には 地質図幅事業を担当していた地質図幅調査所 (Service de Carte Géologique) を吸収合併した。これを機に 機構改革を行なって 従来の科学局 (Direction Scientifique) を DSGL (Direction du Service Géologique et des Laboratoires) とした。これがさらに現在の国立地質調査局 DSGN (Direction du Service Géologique National) となったのである。この間庁舎や研究設備の近代化・総合化をはかって パリの南部 Orléans-La-Source の3ヘクタールの敷地に新天地を求めたのであるが 建設工事は1964年10月着手 1969年末完成し 一部をパリの旧庁舎に残して 大半が移転した。かくして BRGM は その永年の歴史に大きなエポックを画すべき新装なつた新庁舎で 再び活力にあふれた活動を開始したのであるが その中の DSGN には 総員679名の職員がフランスの斯学の発展のため 日夜努力を重ねているのである (写真2)。

BRGM の資料部門は DSGN の一つの部として 資料部長 L. DELBOS 氏以下42名の職員が勤務しているが

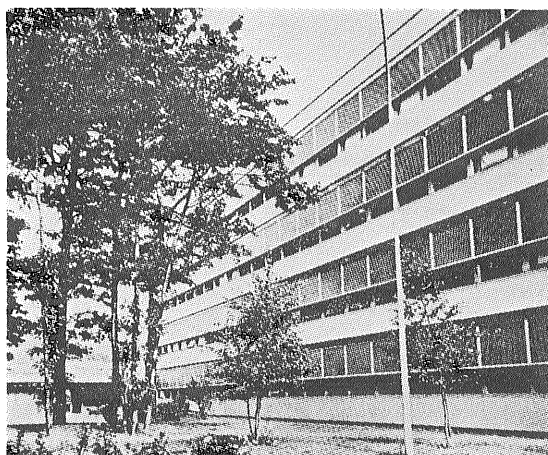


写真2 BRGM (Orléans-La-Source) の研究本館

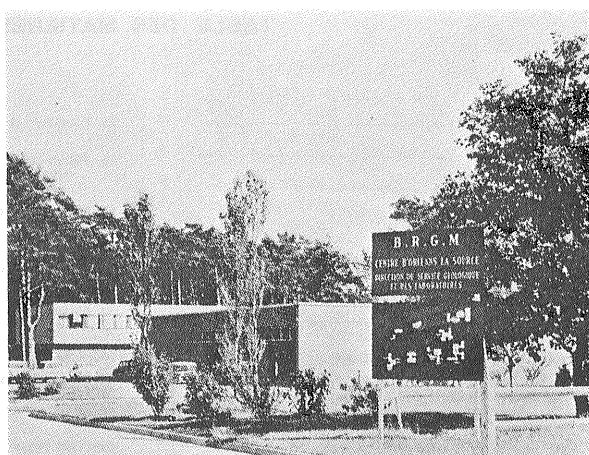


写真3 BRGM (Orléans-La-Source) の通用門と資料部の全景

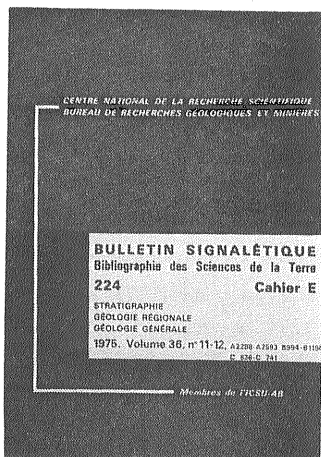


写真4
抄録誌 No. 224, Cahier
Eの表紙

今日のような機能的なスタイルになったのは 1968年1月からといわれる(写真3)。資料部は フランスおよび外国の研究者の研究成果や研究業績を BRGM の研究者に知らせるため すべての必要な資料を可能な限り完全に整備することを目的としている。この業務は BRGM にとって極めて重要であり また必要である大きな作業であるが 資料部はこれによって地球科学の国内および国際的資料センターたることを目標としている。業務内容は 大別すればつぎの3つといえる。すなわち内外の地学関係の資料の収集・整理・索引カードの完備および翻訳(6ヶ国語) 地質関係図幅・個別研究論文・定期刊行物などの出版および配布 CNRSとの協同の地学関係文献抄録誌の出版などである。しかしやはり何といても BRGM の研究者の研究成果を関係出版物として フランスおよび世界各国の関係研究機関に配布して BRGM の研究成果をあげることが重

要な柱となっているようである。

地学関係文献抄録誌

以上にフランスの科学研究開発のあり方と現状 さらにその中での地学関係の状況などについての概要をのべた。したがってフランスの地学関係の文献抄録事業の背景およびアウトラインといったものは 大体御了解いただけたことと思う。これからその内容の詳細にわたってのべることにする。

文献抄録誌の題名

No. 224 の抄録誌を例に その表紙を写真4に示したが 題名は Bulletin Signalétique で サブタイトルとして—Bibliographie des Sciences de la Terre—地球科学編となっている。

表紙の上部には 編集・発行機関を明示してあるが その順序は発行元の CNRS 編集協力機関の BRGM の順となっている。題名の下には No. と抄録内容の専門別および Cahier の A~H 別があり この場合は E である。なお Cahier は英語の Note に当る。最後に発行の年と巻号が記されているが 号は月刊であるためその発行月を表わしている。

抄録誌の大きさは 縦29.5×横21cmである。

分類区分と販価

抄録誌の No. と Cahier A~H 別とその分類区分についてのべる。すでに8項目の分類についてはのべたが これがそのまま No. と Cahier A~H 別となっている訳である。したがってこれらを整理して記すとつぎようになる。

TABLE DES MATIÈRES

Index des auteurs	5	05. Pétrologie et gisement des roches intrusives.....	123
Index permuté	7	06. Pétrologie et gisement des roches métamorphiques.....	128
Index géographique	79	07. Pétrologie et gisement des roches volcaniques	132
Liste des références.		08. Volcanologie actuelle.....	135
A ROCHES CRISTALLINES		Voir aussi Section 120	
01. Généralités, historique.....	119	11. Études régionales	136
02. Traité, théories, méthodologie	119	Nouveaux périodiques.....	—
03. Études expérimentales et théoriques sur les paragenèses	120	Archives originales	138
04. Pétrologie du manteau.....	122	Ouvrages reçus	—

写真5
抄録誌 No. 222, Cahier Cの
目次

No.	Cahier	分類区分	販価(F/年)
220	A	鉱物学・地球化学・宇宙地質学	140
221	B	鉱床学・鉱業経済	140
222	C	火成岩	130
223	D	堆積岩・海洋地質学	160
224	E	層位学・地域地質学・一般地質学	140
225	F	構造地質学	120
226	G	水理学・土质地質学・表層地質学	140
227	H	古生物学	140

販売方法としては月刊誌であるが年決めとなっており 販価も抄録誌の厚さによって120~160フランと幾分の差があるが 平均して140フラン(約8,100円)程度となっている。したがって全8冊では約6.5万円となる。

参 考 事 項

本誌の場合は抄録資料の分析検討について フランスおよび世界各国の関係機関の協力を得て行なっているので 表紙の裏に その国別協力機関名を明記している。その総計は41で うちフランス36(フランス地質学会—Société géologique de France—他) アメリカ・西ドイツ・イタリア・スペイン・ポーランド各1(機関名は省略する)で わが国は入っていない。

また抄録誌の担当機関の住所などのほか 編集責任者名 編集事務局員名 CNRSの製作・配布責任者名 BRGMの関係者名などを明記して 責任の所在を明らかにしている。

さらにこの抄録誌の使用上の注意事項として 索引の方法や文献のイニシアル・ナンバーの説明など詳細に記してあり またその他の資料サービスとして2~3の事項にもふれてあるが これらについては省略する。

抄 録 論 文 数

これは抄録誌のNo.によってかなりの相違がある。すなわち 分類項目の多いNo. 220などは 頁数も250頁程度と多くなるが No. 225のように 分類項目が単一である場合は100頁前後である。したがって掲載論文数も No. 220では 鉱物学約460 地球化学約650 アイソトープ・クロノロジー約420 宇宙化学約650・宇宙地質学約150 総計約1,680であるが No. 225の構造地質学では約800である。その他のNo.の各々の論文数は省略するが これらを平均的にみれば 地学関係の抄録誌8冊の1ヶ月の抄録論文の総数は 約1万とみて差支えあるまい。

なお抄録論文は 索引分類ナンバー 著者名 所属機関名 国名 標題 原著語名と 標準的には3行30語程度の仏文アブストラクトをつけて掲載されている。し

かしなかなには10行以上にわたって かなり詳細なアブストラクトをつけている場合があるが これはとくに関心が高い場合に限られるようである。

編 集 方 法

抄録誌の内容を示す目次は No. 222, Cahier C 火成岩を例に 写真5に示した。これによって その内容は大体知ることが出来よう。

すなわち まず最初に人名別(Index des auteurs) アルファベット順による小項目別(Index permuté) 地域別(Index géographique) の三大別になっている。アルファベット順による小項目別とは 例えば花崗岩(Granite) とかダイク(Dyke) とかの意である。ついで中分類区分別(現世火山学など)の索引リスト(List des références)が記されている。この場合は火成岩のみの単一項目であるため ㊦のみであるが 項目が複数になれば ㊦ ㊧となる訳である。巻末には 定期ニュース オリジナル記録 受入れ著作などが 必要に応じて記載されている。

したがってこの抄録誌は 個人名別 項目別あるいは地域別のいずれかで その論文の整理番号を見出して その番号を索引リストから探し出すという方法で利用する訳である。

なお本抄録誌は フランスをはじめ5ヶ国・総計41の関係機関の協力を得て抄録を行なっていることはすでにのべたが 世界中のあらゆる地学関係の資料を網羅していることは言をまたない。わが国の関係学会誌 機関誌に発表された論文も 適切な仏文アブストラクトをつけて 丹念に抄録されているが その熱意と努力は敬服に値する。

お わ り に

以上にフランスの標題に関し とくに地学関係の文献抄録事業の概要についてのべた。

わが国の場合この種の事業は 従来より行なわれてはいたが 昨年4月よりようやく本格的な歩みを開始し 国内外の約1,300種の出版物について編集し 月刊の地学文献速報が地学文献センターより出版されるようになった。この出版はわが国のこの種の事業の発展にとって 大きな意義があることと思われる。

地学文献センター ☎(0423) 62-5050

(本稿を草するにあたり 在日フランス大使館から多くの資料および写真の提供をうけた。また BRGM の出版物からも写真その他を引用した ここに記して感謝の意を表する次第である)